

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DC287	日本史研究基礎演習II A	2	1.5	2	春ABC	応談	人社 B817	三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学, 田中 友香理	日本史研究の方法論を確認し、解読という実証の深化をめざす。修士論文の作成に向け、具体的な構想を提示する。	対面
02DC288	日本史研究基礎演習II B	2	1.5	2	秋ABC	応談	人社 B817	三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学, 田中 友香理	日本史研究のための基盤となる能力を高める。実証性の深化の上に、自らの研究の論理化した歴史過程を呈示し、修士論文としての完成をめざす。	対面
02DC289	日本史研究指導演習I A	2	1.5	3	春ABC	応談		三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学	課程博士論文作成のための3年次対応の演習である。修士論文を基礎として、より高次の実証性と論理性の獲得を図る。	対面
02DC290	日本史研究指導演習I B	2	1.5	3	秋ABC	応談		三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学	課程博士論文作成のための3年次対応の演習である。論文としての構想を広げるとともに、研究上への位置づけを明確化し、博士論文の基礎となるべき学術論文作成を図る。	対面
02DC291	日本史研究指導演習II A	2	1.5	4	春ABC	応談	人社 B817	三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学	博士論文作成のための4年次対応の演習である。学術論文作成の上に、より高次に論理を整合させた課題設定を行う。	対面
02DC292	日本史研究指導演習II B	2	1.5	4	秋ABC	応談	人社 B817	三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学	課程博士論文作成のための4年次対応の演習である。博士論文作成のための基盤となるべき課題を全体構想のなかに位置づけた学術論文の作成を図る。	対面
02DC293	日本史研究指導演習III A	2	1.5	5	春ABC	応談	人社 B817	三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学	課程博士論文作成のための5年次対応の演習である。全体構想の提示を行い、基軸となる論点を明確化する。	対面
02DC294	日本史研究指導演習III B	2	1.5	5	秋ABC	応談	人社 B817	三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤 学	課程博士論文作成のための5年次対応の演習である。構想の基軸となる論文を提示し理論的裏付けを明確化する。	対面
02DC299	日本史特講I-A	1	1.0	1・2	春AB	火3		三谷 芳幸	古代の法制史料を輪読し、律令制研究に必要な史料の活用方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた制度の展開過程の追究などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令17絶貫条(浮浪人・逃亡人・解放奴隷の登録、本籍地への帰還など)、戸令18造計帳条(計帳の作成主体・作成方法、戸籍の転写など)、戸令19造戸籍条(戸籍の作成部数・記載事項・提出先・勘査・訂正など)の各条を読解していき、最後に戸籍・計帳制度について全体的な考察を行う。	西暦奇数年度開講。 OABACA0と同一。 対面
02DC300	日本史特講I-B	1	1.0	1・2	秋AB	火3		三谷 芳幸	古代の法制史料を輪読し、律令制研究に必要な史料の活用方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた制度の展開過程の追究などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令20造帳籍条(国司による人の実検、人の区分の決定・訂正)、戸令21籍送条(調使・専使による戸籍提出)、戸令22戸籍条(戸籍の保存期間、庚午年籍の永久保存)、戸令23応分条(家人・奴婢の相続、氏賤の除外、田宅・資財・功田・功封の相続、嫡母・継母・嫡子・庶子の相続割合)の各条を読解していき、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 OABACA1と同一。 対面
02DC301	日本史特講II-A	1	1.0	1・2					本特講では、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。また、文献史料を読解する能力の向上にも努める。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)の祭祀・組織を事例として、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書「明和度遷宮記」)の写真版を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を講ずる。必要に応じて履修者には史料読解に基づく報告も求める。	西暦偶数年度開講。 OABACA2と同一。 隔週開講 対面

02DC302	日本史特講II-B	1	1.0	1・2					本特講では、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。文献史料を読解する能力の向上に努めつつ、論文作成に向けての視点を考察する。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)遷宮に参与する諸身分とその組織を事例として、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書「就仮遷宮深齋中難録」)の写真版を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を講じつつ、論文作成に向けての視点を検討する。必要に応じて履修者には史料読解に基づく報告も求める。	西暦偶数年度開講。 OABACA3と同一。 隔週開講 対面
02DC303	日本史特講III-A	1	1.0	1・2	春AB	火2		中野目 徹	日本史学研究的基礎領域である史料学の研究動向を理解するとともに、各自の今後の研究への応用の視点を獲得する。日本近現代史料学について講義する。日本近現代史研究の基礎となる史料学について、古文書学やアーカイブズ学の成果を援用しながら独自の史料学の領域を構築することを旨とする。春学期は史料学の研究史や法制度を中心に取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABACA4と同一。 対面
02DC304	日本史特講III-B	1	1.0	1・2	秋AB	火2		中野目 徹	日本史学研究的基礎領域である史料学の研究動向を理解すると共に各自の今後の研究への応用の視点を獲得する。日本近現代史料学の具体的問題について講義する。日本近現代史研究の基礎となる史料学について、古文書学やアーカイブズ学の成果を援用しながら独自の史料学の領域を構築することを旨とする。秋学期は史料保存の現状と史料学の研究課題について講義する。	西暦奇数年度開講。 OABACA5と同一。 対面
02DC305	日本史特講IV-A	1	1.0	1・2					近代日本における女子高等教育の発展、近代的なジェンダー意識の形成と変容などについて考察する。社会文化史・ジェンダー史を考察する視点を習得を目標とする。	西暦偶数年度開講。 OABACA6と同一。 その他の実施形態
02DC306	日本史特講IV-B	1	1.0	1・2					朝鮮における女子高等教育の発展、近代的なジェンダー意識の形成と変容などについて考察する。特に近代日本との比較を行い、近現代東アジアにおける社会文化史・ジェンダー史を考察する比較の視点を目標とする。	西暦偶数年度開講。 OABACA7と同一。 隔週開講 その他の実施形態
02DC307	日本史特講V-A	1	1.0	1・2	春AB	金3		伊藤 純郎	昭和戦前期の満州移民について、先行研究の検討、関連文献の精読、関連資料の所蔵調査、およびフィールドワークを行う。春学期は、試験移民(武装移民)・満蒙開拓青少年義勇軍について講義する。あわせて満蒙開拓青少年義勇軍関連施設の巡検を行う。	OABACA8と同一。 対面
02DC308	日本史特講V-B	1	1.0	1・2	秋AB	金3		伊藤 純郎	昭和戦前期の満州移民について、先行研究の検討、関連文献の精読、関連資料の所蔵調査、およびフィールドワークを行う。秋学期は、分村移民・分郷移民について講義する。あわせてわが国で最初に分村移民を行った長野県大日向村の巡検を行う。	OABACA9と同一。 対面
02DC309	日本史演習I-A	2	1.0	1・2					古代の法制史料を精読し、律令制研究に必要な史料読解の方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた日中の制度比較などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令9五家条(家の相互檢察や人の移動の把握)以降の各条を精読し、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 OABACB0と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC310	日本史演習I-B	2	1.0	1・2					古代の法制史料を精読し、律令制研究に必要な史料読解の方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた日中の制度比較などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令11給侍条(子孫・近親による高齢者介護)以降の各条を精読し、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 OABACB1と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC311	日本史演習II-A	2	1.0	1・2	春AB	月4,5		山澤 学	本演習では、近世史料を講読しつつ、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)における祭祀・組織を事例とし、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書「就仮遷宮深齋中難録」)の写真版を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識を修得しつつ、その研究方法を検討する。	西暦奇数年度開講。 OABACB2と同一。 隔週開講 対面
02DC312	日本史演習II-B	2	1.0	1・2	秋AB	月4,5		山澤 学	本演習では、近世史料を講読し、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得しつつ、論文作成能力を醸成する。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)遷宮に参与する祭祀・組織に注目し、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書の享保19・20年(仮遷宮)を精読し、日本宗教社会史研究における基礎的知識を学びつつ研究方法を検討し、論文作成に向けての視点を考察する。	西暦奇数年度開講。 OABACB3と同一。 隔週開講 対面

02DC313	日本史演習III-A	2	1.0	1・2	春AB	火5		中野目 徹, 田中友香理	日本近代思想史に関する文献を講読する演習授業。春学期は明治・昭和期に活動した思想家・ジャーナリストである三宅雪嶺(1860~1945)の自伝『自分を語る』を精読する。日本近現代史におけるジャーナリズムと思想の関係を、三宅雪嶺を中心に徳富蘇峰との比較において検討する。自伝史料の詳細な分析を行なう。	OABACB4と同一。 対面
02DC314	日本史演習III-B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		中野目 徹, 田中友香理	日本近代思想史に関する文献を講読する演習授業。秋学期は、前期に引き続き三宅雪嶺のもう一つの自伝である『大学今昔譚』を精読する。その際、自伝が連載された雑誌『婦人之友』と、それに掲載された他の回想的論説にも注意を払いながら進めていく。三宅とは同時代に活動した徳富蘇峰との比較に留意する。	OABACB5と同一。 対面
02DC315	日本史演習IV-A	2	1.0	1・2	春AB	木3,4		朴 宣美	近代日本における「他者認識」・アジア認識に関する先行研究への「テキスト批判」を行う。日本の研究を中心に取り上げつつ、ほかのアジアにおける研究との比較を行う。このテーマに対する研究史的考察ができることを目標とする。	西暦奇数年度開講。 OABACB6と同一。 隔週開講 その他の実施形態
02DC316	日本史演習IV-B	2	1.0	1・2	秋AB	木3,4		朴 宣美	近代東アジアにおける「他者認識」・アジア認識に関する先行研究への「テキスト批判」を行う。韓国を中心に、日本における先行研究との比較を視野に入れながら、先行研究の問題意識や論点、研究史的な位置づけなどを明らかにすることを目標とする。	西暦奇数年度開講。 OABACB7と同一。 隔週開講 その他の実施形態
02DC317	日本史基礎実習-1	3	2.0	1・2					日本史研究の基礎的な方法論を修得するため、実際に調査・観察するフィールドワークを行う。受講者は、日本史学領域全教員による通史的視野に立った指導を受けつつ、具体的な調査地を設定し、事前に調査地および日本史学研究者として身につけるべき調査の技能を学んだ上で、集中形式で調査地におけるフィールドワークを実施していく。これらを通じて、研究倫理をふまえ、協同して行う史料閲覧・撮影、聞き取り調査、景観観察等の技術を修得する。	西暦偶数年度開講。 OABACB8と同一。 対面
02DC318	日本史研究法実習-1	3	2.0	1・2	秋ABC	応談		三谷 芳幸, 伊藤純郎, 中野目 徹, 朴 宣美, 山澤学, 田中 友香理	日本史学研究の専門的な方法論を修得するため、実際に調査・観察するフィールドワークを行い、日本史学研究の専門的素養である実地調査の方法と問題点を検討する。受講者は、日本史学領域全教員による通史的視野に立った指導を受けつつ、事前に調査地に関する学修およびその成果の報告を行った後に、集中形式で調査地におけるフィールドワークを協同して行う。その上で、史料閲覧・撮影、聞き取り調査、景観観察など、専門的調査における方法・問題点を考察し、研究倫理を含む日本史学研究者として必要な姿勢を体得していく。	西暦奇数年度開講。 OABACB9と同一。 対面
02DC391	東洋史研究基礎演習II A	2	1.5	2	春ABC	応談	人社B817	上田 裕之, 丸山宏, 山本 真, 岩田啓介	2年次生を対象とする春学期の研究演習。中間評価論文作成にむけて、総括的指導を行う。	オンライン(同時双方向型)
02DC392	東洋史研究基礎演習II B	2	1.5	2	秋ABC	応談	人社B817	岩田 啓介, 丸山宏, 山本 真, 上田裕之	2年次生を対象とする秋学期の研究演習。中間評価論文作成にむけて、総括的指導を行なう。	オンライン(同時双方向型)
02DC393	東洋史研究演習I A	2	1.5	3	春ABC	応談	人社B817	上田 裕之, 丸山宏, 山本 真, 岩田啓介	3年次生を対象とする春学期の研究演習。関連する隣接諸科学の知識の習得、新たな史料の発掘とその利用について指導する。	オンライン(同時双方向型)
02DC394	東洋史研究演習I B	2	1.5	3	秋ABC	応談	人社B817	岩田 啓介, 丸山宏, 山本 真, 上田裕之	3年次生を対象とする秋学期の研究演習。関連する隣接諸科学の知識、新たな史料の発掘とその利用について指導を行う。	オンライン(同時双方向型)
02DC395	東洋史研究演習II A	2	1.5	4	春ABC	応談	人社B817	上田 裕之, 丸山宏, 山本 真, 岩田啓介	4年次生を対象とする春学期の研究演習。博士論文の内容構成、史料の利用法、論文の全体的な構想の修正と補強に関して、具体的な指導を行う。	オンライン(同時双方向型)
02DC396	東洋史研究演習II B	2	1.5	4	秋ABC	応談	人社B817	岩田 啓介, 丸山宏, 山本 真, 上田裕之	4年次生を対象とする秋学期の研究演習。博士論文の内容構成、史料の利用方法、論文の全体的な構想の修正と補強に関して具体的な指導を行う。	オンライン(同時双方向型)
02DC397	東洋史研究演習III A	2	1.5	5	春ABC	応談	人社B817	上田 裕之, 丸山宏, 山本 真, 岩田啓介	5年次生を対象とする春学期の研究演習。博士論文提出に関する、各段階での具体的な指導を行う。	オンライン(同時双方向型)
02DC398	東洋史研究演習III B	2	1.5	5	秋ABC	応談	人社B817	岩田 啓介, 丸山宏, 山本 真, 上田裕之	5年次生を対象とする秋学期の研究演習。博士論文提出に関する各段階での具体的な指導を行う。	オンライン(同時双方向型)
02DC403	東洋社会文化史I-A	2	1.0	1・2					中国明清時代の少数民族社会における道教の受容の歴史について、写本資料を講読しながら理解を深めその意義を講義する。清末広西のランテン系ヤオ族社会で使用された『大齋秘語』を講読し、道教写本の研究方法、明清道教史、道教の多元性、漢族と少数民族の道教の異同を論じる方法を検討する。特に死者儀礼における身体の再生の部分をつかい、儀礼的枠組みの大きな共通性と生命論の解釈の民族的・地域的独自性を検討する。	西暦偶数年度開講。 01DQ399, OABACD0と同一。 オンライン(同時双方向型)

02DC404	東洋社会文化史I-B	2	1.0	1・2					中国南宋時代の社会において行われた道教儀礼を取り挙げ、儀礼文献の解説と分析を交えながら講義する。この授業では13世紀の金允中『上清靈宝大宝法』巻16黄籙次第品、巻22臨壇符法品により、道教儀礼の構造と主要な儀礼項目内容を検討し、文献資料に現れる語彙、構文、意味について習熟し、宋代を軸とする中国社会における道教儀礼の理解を深める。	西暦偶数年度開講。 01DQ400、0ABACD1と同一。 オンライン(オンデマンド型)
02DC405	東洋社会文化史II-A	2	1.0	1・2	春AB	火5	丸山 宏		中国南宋時代の社会において行われた道教儀礼を取り挙げ、儀礼文献の解説と分析を交えながら講義する。この授業では13世紀の金允中『上清靈宝大宝法』巻37水火鍊度品、巻44鍊度により、道教の死者儀礼に見られる死者への働きかけ、特に鍊度と説成について考察を加える。同時代の王契真『上清靈宝大法』、蔣叔興『無上黄籙大齋立成儀』などの比較も行い、宋代を軸とする中国社会における道教儀礼の理解を深める。	西暦奇数年度開講。 0ABACD2と同一。 オンライン(オンデマンド型)
02DC406	東洋社会文化史II-B	2	1.0	1・2	秋AB	火5	丸山 宏		中国清時代の18世紀後半から19世紀前半における道教の実態について、『道蔵輯要』所収の呂祖經典である『玉清贊化九天演政心印集経』、『玉清贊化九天演政心印宝懺』、『九皇新経註解』を取り挙げ、部分的に講読しながら、清朝道教史をその独自の発展や活力の視点から捉え直すことを試みる。儒教、道教の典籍を当時の道教界に属した知識人と同次元で理解することにより、民間社会における宗教の力量について考察する。	西暦奇数年度開講。 0ABACD3と同一。 オンライン(オンデマンド型)
02DC407	東洋政治経済史I-A	2	1.0	1・2					1~2年次生を対象とする。中国の近代史について、特に政治史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦偶数年度開講。 01DQ365、0ABACD4と同一。 その他の実施形態
02DC408	東洋政治経済史I-B	2	1.0	1・2					1~2年次生を対象とする。中国の現代史について、特に政治史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦偶数年度開講。 01DQ366、0ABACD5と同一。 その他の実施形態
02DC409	東洋政治経済史II-A	2	1.0	1・2	春AB	火3	山本 真		1~2年次生を対象とする。中国の近代史について、特に社会経済史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦奇数年度開講。 0ABACD6と同一。 その他の実施形態
02DC410	東洋政治経済史II-B	2	1.0	1・2	秋AB	火3	山本 真		1~2年次生を対象とする。中国の現代史について、特に社会経済史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦奇数年度開講。 0ABACD7と同一。 その他の実施形態
02DC411	東洋史史料研究I-A	2	1.0	1・2					清代雍正年間から乾隆20年までの錢法について解説した上で、当該時期の錢法に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔乾隆朝奏摺』『宮中檔雍正朝奏摺』『宮中檔乾隆朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實録』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	西暦偶数年度開講。 0ABACD8と同一。 対面
02DC412	東洋史史料研究I-B	2	1.0	1・2					清代雍正年間から乾隆20年までの銅政について解説した上で、当該時期の銅政に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔乾隆朝奏摺』『宮中檔雍正朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實録』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	西暦偶数年度開講。 0ABACD9と同一。 対面
02DC413	東洋史史料研究II-A	2	1.0	1・2	春AB	金6	上田 裕之		清代乾隆21~60年の錢法について解説した上で、当該時期の錢法に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔乾隆朝奏摺』『宮中檔雍正朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實録』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	西暦奇数年度開講。 0ABACE0と同一。 対面

02DC414	東洋史史料研究II-B	2	1.0	1・2	秋AB	金6		上田 裕之	清代乾隆21~60年の銅政について解説した上で、当該時期の銅政に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔硃批奏摺財政類』『宮中檔雍正朝奏摺』『宮中檔乾隆朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實録』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	西暦奇数年度開講。 OABACE1と同一。 対面	
02DC41A	東洋民族社会史I-A	2	1.0	1・2					17世紀後半から18世紀前半にかけて清朝とモンゴル・チベットの有力者との間で取り交わされた文書を収録する『清内閣蒙古堂檔』所収の満洲語の檔案を受講生全員で講読する。また、特に18世紀前半に清朝がモンゴルへの統治を拡大する中で、清朝のモンゴル政策が、現地社会の動向とどのように関連していたのかを議論する。	西暦偶数年度開講。 OABACE2と同一。 対面	
02DC41B	東洋民族社会史I-B	2	1.0	1・2					清朝の康熙年間(1661-1722)における奏摺を収録する「康熙朝滿文硃批奏摺」から、特に18世紀初頭のチベット政策に関する満洲語の奏摺を受講生全員で講読する。そして、18世紀前半に清朝がチベットへの影響力を拡大する中で、清朝のチベット政策がいかんして策定され、それがダライ=ラマ政権の対外政策とどのように関連していたのかを議論する。	西暦偶数年度開講。 OABACE3と同一。 対面	
02DC41C	東洋民族社会史II-A	2	1.0	1・2	春AB	木4		岩田 啓介	18世紀前半に清朝とモンゴル・チベットの有力者との間で取り交わされた『清内閣蒙古堂檔』所収の満洲語の檔案、ならびに『宮中檔雍正朝奏摺』所収の満洲語の奏摺から、清朝とモンゴル・チベットの境界地帯に関する史料を受講生全員で講読する。そして、18世紀前半に清朝が内陸アジアへと拡大する中で、境界地帯の社会における政治的動向が清朝の政策とどのように関連していたのかを議論する。	西暦奇数年度開講。 OABACE4と同一。 対面	
02DC41D	東洋民族社会史II-B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		岩田 啓介	『軍機処滿文準噶爾使者檔訳編』『清代軍機処滿文熬茶檔』所収の満洲語史料を講読し、18世紀前半における内陸アジア情勢の動向と清朝のモンゴル政策、チベット政策の関連について議論する。	西暦奇数年度開講。 OABACE5と同一。 対面	
02DC495	西洋史研究基礎演習II A	2	1.5	2	春ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC496	西洋史研究基礎演習II B	2	1.5	2	夏季休業中		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC497	西洋史研究演習I A	2	1.5	3	春ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC498	西洋史研究演習I B	2	1.5	3	秋ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC499	西洋史研究演習II A	2	1.5	4	春ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC500	西洋史研究演習II B	2	1.5	4	秋ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC501	西洋史研究演習III A	2	1.5	5	春ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC502	西洋史研究演習III B	2	1.5	5	秋ABC		応談	人社 B717	佐藤 千登勢, 山田 重郎, 柴田 大輔, 津田 博司, 村上 宏昭	西洋史研究の演習を行う。演習は学生による発表形式によって進められる。	オンライン(同時双方向型)
02DC507	古代西アジア史研究特講I-A	2	1.0	1・2	春AB	火5		山田 重郎	古代メソポタミアの歴史記述について体系的に学び、古代メソポタミアの人々の歴史観の変遷を考察する。楔形文字の原典から古代メソポタミアの種々の歴史文書を文献学的に正確に読み、その内容について考察する。この授業では特にシュメルとバビロニアの碑文を講読する。	OABACF0と同一。 オンライン(同時双方向型)	
02DC508	古代西アジア史研究特講I-B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		山田 重郎	古代メソポタミアの歴史記述について体系的に学び、古代メソポタミアの人々の歴史観の変遷を考察する。楔形文字の原典から古代メソポタミアの種々の歴史文書を文献学的に正確に読み、その内容について考察する。この授業では特にアッシリアの碑文を講読する。	OABACF1と同一。 オンライン(同時双方向型)	

02DC509	古代西アジア史研究特講II-A	2	1.0	1・2	春AB	火6		柴田 大輔	シュメル語初級文法の概要を学ぶ。紀元前22～20世紀(ゲデア王朝時代・ウル第三王朝時代・イシン王朝時代)におけるいわゆる「古典シュメル語」の特性に焦点を絞り、文法概要の説明と練習問題の実施を交互させながら、音韻論、正字法、名詞句、動詞語幹と名詞形、格、代名詞、定動詞の活用、動詞と名詞の関わり方、法性・否定・接続の順番で学習する。	OABACF2と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC510	古代西アジア史研究特講II-B	2	1.0	1・2	秋AB	火6		柴田 大輔	シュメル語の読解能力を習得するとともに、紀元前三千年紀の楔形文字書体を学習し、原史料の読解に基づく古代西アジア史研究についての理解を深める。ウル第三王朝期の碑文、ゲデア王朝期の碑文、ウル第三王朝期の法文書の中から、言語の習得に適切な平易なサンプルを選び、講読する。	OABACF3と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC511	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講I-A	2	1.0	1・2	春AB	火4		津田 博司	第2次世界大戦前のイギリスおよび旧イギリス帝国圏の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	01DQ227, OABACF4と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC512	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講I-B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		津田 博司	第2次世界大戦後のイギリスおよび旧イギリス帝国圏の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	01DQ228, OABACF5と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC513	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講II-A	2	1.0	1・2	春AB	木3		佐藤 千登勢	20世紀のアメリカ合衆国における、貧困と失業、社会保障・社会福祉の歴史について考察する。授業の前半では、世紀転換期の革新主義の時代から、1930年代のニューディール、第二次世界大戦期を経て1960年代の「偉大な社会」に至るまで、社会政策が拡充していった歴史的過程を検討する。その後、1970年代以降、アメリカ経済が停滞する中で社会政策が後退を余儀なくされ、新たな社会福祉モデルが追及されていくようになった状況を見ていく。毎回、それぞれのテーマに応じた英語の文献を読みながら、授業を進めていく。	OABACF6と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC514	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講II-B	2	1.0	1・2	秋AB	木3		佐藤 千登勢	20世紀のアメリカ合衆国における、医療の歴史について考察する。授業の前半では、アメリカ史において医療がどのように研究されてきたのかを理解するために、主要な研究を概観する。その後、世紀転換期の革新主義の時代の医療を取り上げた論文を講読する。授業の後半では、アメリカの医療史の中で、人種・エスニシティ、ジェンダーの視点がどのように取り入れられてきたのかを学び、関連する論文を講読する。さらに、医療制度や医療保険をめぐる現代的な問題について理解を深めるために、医療政策を扱った論文を講読する。	OABACF7と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC515	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講III-A	2	1.0	1・2	春AB	木5		村上 宏昭	ヨーロッパ史研究に関連する文献・テーマを紹介しながら、歴史学研究の基礎的方法論を習得することを目的とする。歴史学の方法論は隣接諸分野から多くを借用しているため、本授業で取り上げられる文献やテーマも社会学や哲学、人類学など、歴史学以外のものも含まれる。なお授業は指定のテキストを参照しながらディスカッション形式で行われる。毎回テキストの該当箇所を指示しておく。この授業では特に哲学のテキストを参照する。	01DQ223, OABACF8と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC516	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講III-B	2	1.0	1・2	秋AB	木5		村上 宏昭	ヨーロッパ史研究に関連する文献・テーマを紹介しながら、歴史学研究の基礎的方法論を習得することを目的とする。歴史学の方法論は隣接諸分野から多くを借用しているため、本授業で取り上げられる文献やテーマも社会学や哲学、人類学など、歴史学以外のものも含まれる。なお授業は指定のテキストを参照しながらディスカッション形式で行われる。毎回テキストの該当箇所を指示しておく。この授業では特に社会学・人類学のテキストを参照する。	01DQ224, OABACF9と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC554	歴史地理学研究演習II A	2	1.5	4	春ABC	応談	人社 B717	中西 僚太郎	4年次生段階に応じた歴史地理学の学位論文作成のための指導を行う。具体的な論文作成法を、主として内外の参考文献の紹介と討議を通して考える。	対面
02DC555	歴史地理学研究演習II B	2	1.5	4	秋ABC	応談	人社 B717	中西 僚太郎	4年次生段階に応じた歴史地理学の学位論文作成のための指導を行う。具体的な論文作成法を、各自の研究事例の発表と討議を通して考える。	対面
02DC556	歴史地理学研究演習III A	2	1.5	5	春ABC	応談	人社 B717	中西 僚太郎	5年次生段階に応じた歴史地理学の学位論文作成のための指導を行う。具体的な論文作成法を、主として内外の参考文献の紹介と討議を通して考える。	対面
02DC557	歴史地理学研究演習III B	2	1.5	5	秋ABC	応談	人社 B717	中西 僚太郎	5年次生段階に応じた歴史地理学の学位論文作成のための指導を行う。具体的な論文作成法を、各自の研究事例の発表と討議を通して考える。	対面

02DC562	歴史地理学特講-A	1	1.0	1・2					日本の絵図・地図ならびに文書史料と統計資料に関して、近年の研究動向を把握するとともに、それらの歴史地理学における活用方法を身に着けることが目的である。授業の前半では日本の絵図・地図、後半では文書・統計に関して、従来の歴史地理学の研究を紹介したのち、それらの活用方法について検討する。具体的には、前半では古代・中世の絵図、近世の国絵図、城下絵図、町絵図、街道絵図、村絵図、近代の地籍図、絵地図を取り上げ、後半では近世の町方文書、村方文書、近代の役場文書、私文書などを取り上げる。	西暦偶数年度開講。 OABACH0と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC563	歴史地理学特講-B	1	1.0	1・2					日本の近代の歴史地理学に関して、近年の研究動向を把握し、現在の研究の到達点を理解するとともに、今後の研究課題を見出す能力を身に着けることが目的である。具体的には、日本の近代の都市と村落、陸上交通と海上交通、人口、農業、鉱工業、商業、観光、宗教文化などの諸問題を取り上げ、研究の到達点を示し、今後の研究課題を展望する。	西暦偶数年度開講。 OABACH1と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC564	歴史地理学演習-A	2	1.0	1・2	春AB	火3		中西 僚太郎	日本の農山漁村の歴史地理学的諸問題に関して、従来の研究の到達点について理解するとともに、今後の研究課題を見出す能力を身に付けることが目的である。日本の農山漁村の歴史地理学的諸問題に関して、従来の研究論文を受講生とともに講読することによって授業を進める。具体的には、古代・中世の農村・農業、山村・林業、漁村・漁業、近世の農村(村落構造・家族構造)・農法、農業経営、山村・林業、漁村・漁業、近代の農村(土地利用・村落構造・家族構造)、農法、農業経営、山村・林業、漁村・漁業などに関する論文の講読を行う。	西暦奇数年度開講。 OABACH2と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC565	歴史地理学演習-B	2	1.0	1・2	秋AB	火3		中西 僚太郎	日本および中国の近代の地域形成に関わる歴史地理学的諸問題について、従来の研究成果の到達点について理解するとともに、様々な史資料の活用方法を身に付けることが目的である。授業の前半では従来の研究論文を受講生とともに講読する。具体的には、大都市形成、地方都市形成、農業地域形成、交通網の形成、工業地域形成に関する論文を取り上げる。授業の後半では日本および中国の近代の地誌、旅行記録、案内記を具体的にに取り上げて、その活用方法を学習する。	西暦奇数年度開講。 OABACH3と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC566	歴史地理学実習I-A	3	2.0	1・2					歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。特定地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を実地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	西暦偶数年度開講。 OABACH4と同一。 対面
02DC567	歴史地理学実習I-B	3	2.0	1・2					歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学実習Iにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	西暦偶数年度開講。 OABACH5と同一。 対面
02DC568	歴史地理学実習II-A	3	2.0	1・2	春C夏季休業中	応談		中西 僚太郎	歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。歴史地理学実習IAとは異なる地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を実地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	西暦奇数年度開講。 OABACH6と同一。 対面
02DC569	歴史地理学実習II-B	3	2.0	1・2	秋ABC	応談		中西 僚太郎	歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学実習IIAにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	西暦奇数年度開講。 OABACH7と同一。 対面

02DC576	歴史地理学研究実習-A	3	2.0	1-3	春C夏季休業中	応談		中西 僚太郎	博士後期課程段階に応じた歴史地理学分野での高度な学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。特定地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を実地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	0BBADG6と同一。 対面
02DC577	歴史地理学研究実習-B	3	2.0	1-3	秋ABC	応談		中西 僚太郎	博士後期課程段階に応じた歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での高度な学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学研究実習Aにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	0BBADG7と同一。 対面

専門科目(人類学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DC613	先史学・考古学基礎研究II A	2	1.5	2	春ABC	応談	人社 B717	谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	修士論文(中間評価論文)の研究テーマに即した題材を取り上げ、それについて検討、討議する。	オンライン(同時双方向型)
02DC614	先史学・考古学基礎研究II B	2	1.5	2	秋ABC	応談	人社 B717	前田 修, 三宅 裕, 滝沢 誠, 谷口 陽子	修士論文(中間評価論文)の研究テーマに即した題材を取り上げ、それについて検討、討議する。	オンライン(同時双方向型)
02DC615	先史学・考古学研究I A	2	1.5	3	春ABC	応談	人社 B717	谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	先史学・考古学の最新の研究成果を持ち寄り、資料や方法論、結論の妥当性などについて、相互に検討を深める。	オンライン(同時双方向型)
02DC616	先史学・考古学研究I B	2	1.5	3	秋ABC	応談	人社 B717	前田 修, 三宅 裕, 滝沢 誠, 谷口 陽子	先史学・考古学の最新の研究成果を持ち寄り、資料や方法論、結論の妥当性などについて、相互に検討を深める。	オンライン(同時双方向型)
02DC617	先史学・考古学研究II A	2	1.5	4	春ABC	応談	人社 B717	谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	先史学・考古学の最新の研究成果を持ち寄り、資料や方法論、結論の妥当性などについて、相互に検討を深める。	オンライン(同時双方向型)
02DC618	先史学・考古学研究II B	2	1.5	4	秋ABC	応談	人社 B717	前田 修, 三宅 裕, 滝沢 誠, 谷口 陽子	先史学・考古学の最新の研究成果を持ち寄り、資料や方法論、結論の妥当性などについて、相互に検討を深める。	オンライン(同時双方向型)
02DC619	先史学・考古学研究III A	2	1.5	5	春ABC	応談	人社 B717	谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	先史学・考古学の最新の研究成果を持ち寄り、資料や方法論、結論の妥当性などについて、相互に検討を深める。	オンライン(同時双方向型)
02DC620	先史学・考古学研究III B	2	1.5	5	秋ABC	応談	人社 B717	前田 修, 三宅 裕, 滝沢 誠, 谷口 陽子	先史学・考古学の最新の研究成果を持ち寄り、資料や方法論、結論の妥当性などについて、相互に検討を深める。	オンライン(同時双方向型)
02DC625	先史学・考古学研究I-A	2	1.0	1・2					狩猟採集民社会では、食料の分配など平等主義的な社会原理が強く働いていることが指摘されている。そこからどのように社会的不平等が生まれ、階層化社会が形成されるようになるのか、先史時代における社会的不平等の発生をテーマとしたFlannery, K. and J. Marcus 2012 "The Creation of Inequality" をテキストとして、特に狩猟採集や農耕との関係、儀礼関係する建物や威信財について扱った章を読みながら理解を深める。さらに、各章の内容を題材にして、関連する文献にも触れながら幅広い観点から議論をおこなう。	西暦偶数年度開講。 0ABACJ0と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC626	先史学・考古学研究I-B	2	1.0	1・2					平等主義的原理が強く働く狩猟採集民社会からどのようにして社会的不平等が発生していくのか、そのメカニズムについて先史時代の考古学的資料を基に考察を深めていく。特に、洞窟壁画や動産美術などの旧石器時代の芸術、シンボリズムや血縁的集団の形成と深い関係にある儀礼祭祀、狩猟採集民社会における定住化の問題、農耕と社会の階層化の関係、饗宴が果たした役割、公共建造物の出現、象徴的意味の付与された器物の生産など、それぞれのテーマが議論されている英文の論文を読み、それを基にした議論を通じて理解を深める。	西暦偶数年度開講。 0ABACJ1と同一。 オンライン(同時双方向型)

02DC627	先史学・考古学研究 II-A	2	1.0	1・2	春AB	月5	三宅 裕	人類社会の適応戦略について幅広い視点から考察する先史学の方法と理論について理解を深める。狩猟採集社会の特徴について多方面から検討しているテキストを講読し、議論を通じて先史時代の社会について考察する。受講者がテキストの中から担当する文献を選び、その内容について発表した後、討論をおこない、それぞれのテーマに関する理解を深めていく。	西暦奇数年度開講。 OABACJ2と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC628	先史学・考古学研究 II-B	2	1.0	1・2	秋AB	月5	三宅 裕	人類社会の適応戦略について幅広い視点から考察する先史学の方法と理論について理解を深める。初期農耕社会の特徴について多方面から検討しているテキストを講読し、議論を通じて先史時代の社会について考察する。テキストとして指定された論文を読み、受講者がその内容について発表し、それを受けて議論していく。	西暦奇数年度開講。 OABACJ3と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC629	先史学・考古学研究 III-A	2	1.0	1・2				古墳時代は日本列島中央部における国家形成期と位置づけられ、各地域社会を横断する汎列島規模での重層的な政治構造が成立した時期と考えられる。この授業では、古墳の存在形態をめぐる従来の議論を批判的に検討しながら、古墳時代における政治構造の変遷とその特質について専門的知識を深めることを目標とする。毎回の授業では、古墳の存在形態をめぐるこれまでの議論とその問題点について、受講生1名が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代の政治構造を多角的かつ通時的に考察する。	西暦偶数年度開講。 OABACJ4と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC630	先史学・考古学研究 III-B	2	1.0	1・2				弥生時代から古墳時代にかけての社会変化を理解するにあたり、前方後円墳に代表される古墳がどのような経緯で成立したのかを明らかにすることは、きわめて重要な課題である。この授業では、各地に認められる弥生墳丘墓の実態を把握したうえで、古墳出現の歴史的意義について理解を深める。授業の前半で弥生墳丘墓の実態把握を進め、授業の後半で縦向型前方後円墳と東日本の前方後円墳について検討する。毎回の授業では、個別のテーマについて1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳出現の歴史的意義を考察する。	西暦偶数年度開講。 OABACJ5と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC631	先史学・考古学研究 IV-A	2	1.0	1・2	春AB	木5	滝沢 誠	弥生時代には、拠点集落を中核とした地域社会の構造が典型的に認められるが、古墳時代になると、一般の集落から独立したかたちで首長居館が成立し、一般の集落は散在化する。この授業では、主に関東地方の事例分析にもとづきながら、古墳時代における地域社会の特質について理解を深める。古墳時代の居住域、墓域、生産域などにかかわる個別のテーマについて、毎回1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代における地域社会の構造的特質について考察する。	西暦奇数年度開講。 OABACJ6と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC632	先史学・考古学研究 IV-B	2	1.0	1・2	秋AB	木5	滝沢 誠	古墳時代の考古資料には、近畿地方の政治勢力とのかかわりを示すものとは別に、特定の地域にのみ分布する考古資料も少なからず存在する。この授業では、そうした地域的偏在性を示す考古資料を取り上げて、古墳時代の地域色とその背景について理解を深める。地域的偏在性を示す古墳時代資料のうち、東海地方と関東地方の事例を取り上げて、毎回1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代の地域色について考察する。	西暦奇数年度開講。 OABACJ7と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC633	先史学・考古学研究V-A	2	1.0	1・2				先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目し、とくに産地推定に関する最新の学術論文を選択する。論文中に利用されている分析手法の理論を理解したうえで、内容を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦偶数年度開講。 OABACJ8と同一。 オンライン(同時双方 向型)

02DC634	先史学・考古学研究V-B	2	1.0	1・2					先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目し、とくに年代測定に関する最新の学術論文を選択する。論文に利用されている分析手法の理論を理解したうえで、内容を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦偶数年度開講。 OABACJ9と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC635	先史学・考古学研究VI-A	2	1.0	1・2	秋AB	集中		谷口 陽子	先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目する。とくに材質分析に関する最新の学術論文を選択し、そこに利用されている分析手法の理論を理解する。選択した論文を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦奇数年度開講。 OABACK0と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC636	先史学・考古学研究VI-B	2	1.0	1・2	秋AB	金3		谷口 陽子	先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域を設定する。とくに機器分析を用いた材質分析に関する最新の学術論文を選択し、そこに利用されている分析手法の理論を理解する。それらの論文を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦奇数年度開講。 OABACK1と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC637	先史学・考古学基礎実習-1	3	4.0	1・2	秋ABC 春学期		応談	前田 修, 三宅 裕, 滝沢 誠, 谷口 陽子	発掘調査や測量調査などのフィールドワークに参加し、基本的な作業を修得することを目標とする。あわせて、フィールドワークに参加している学学生を指導し、調査指導者として必要な基礎的能力を養うことを目標とする。	OABACK2と同一。 対面
02DC63A	先史学・考古学研究VII-A	2	1.0	1・2					考古学の理論について、おもにプロセス考古学を取り上げ、客観性と法則性を重視する歴史観および物質文化の研究方法を解説する。受講者は割り当てられた論文を講読し、論文のレビューを中心とした発表を行う。	西暦偶数年度開講。 OABACK3と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC63B	先史学・考古学研究VII-B	2	1.0	1・2					考古学の理論について、おもにポスト・プロセス考古学・解釈考古学を取り上げ、歴史の主観的認識と物質文化が持つ社会的意味を重視する研究方法を解説する。受講者は割り当てられた論文を講読し、論文のレビューを中心とした発表を行う。	西暦偶数年度開講。 OABACK4と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC63C	先史学・考古学研究VIII-A	2	1.0	1・2	春AB	火5		前田 修	考古学における交易研究をテーマとし、過去の物質交易をあきらかにするための方法論に関して、その研究史と最新の研究動向を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OABACK5と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC63D	先史学・考古学研究VIII-B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		前田 修	考古学における交易研究をテーマとし、国内外の研究事例を扱いながら、過去における物質交易と社会の関係について考察する。	西暦奇数年度開講。 OABACK6と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC64D	先史学・考古学研究実習-1	3	4.0	1 - 3	秋ABC 春学期		応談	前田 修, 三宅 裕, 滝沢 誠, 谷口 陽子	発掘調査や測量調査などのフィールドワークに主導的な立場で参加する。調査計画の立案から調査の円滑な遂行、調査成果の取りまとめまでの一連の方法を修得することを目標とする。あわせて、フィールドワークに参加している博士前期課程の大学院生及び学学生を指導し、調査指導者として必要な実践的能力を養うことを目標とする。	OBBDJ6と同一。 対面
02DC675	民俗学研究I A	2	1.5	3	春ABC		応談	人社 B717 武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰	1年次生を対象とする中級セミナー。博士論文のテーマ選定を目標として、論文執筆に関わる指導を行う。	オンライン(同時双方向型)

02DC676	民俗学研究I B	2	1.5	3	秋ABC	応談	人社 B717	武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰	1年次生を対象とする中級セミナー。博士論文に 向けての研究計画、調査計画に関わる指導を行 う。	オンライン(同時双方 向型)
02DC677	民俗学研究II A	2	1.5	4	春ABC	応談	人社 B717	武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰	2年次生を対象とする中級セミナーの後半。博士 論文の完成を目標として、論文執筆に関わる指 導を行う。	オンライン(同時双方 向型)
02DC678	民俗学研究II B	2	1.5	4	秋ABC	応談	人社 B717	武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰	2年次生を対象とする中級セミナーの後半。具体 的な調査データに基づいて博士論文の全体構成 を検討する。	オンライン(同時双方 向型)
02DC679	民俗学研究III A	2	1.5	5	春ABC	応談	人社 B717	武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰	3年次生を対象とする上級セミナー。博士論文の 完成を目標として、概要および課題について指 導を行う。	オンライン(同時双方 向型)
02DC680	民俗学研究III B	2	1.5	5	秋ABC	応談	人社 B717	武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰	3年次生を対象とする上級セミナー。実際に論文 を執筆しながらさらに研究課題を明確化し、博 士論文を完成させる。	オンライン(同時双方 向型)
02DC731	文化人類学基礎研究II A	2	1.5	2	春ABC	応談	人社 B817	木村 周平	2年次生を対象として、学生各自が修士論文の研 究課題に沿って民族誌および理論について発表 する。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC732	文化人類学基礎研究II B	2	1.5	2	秋ABC	応談	人社 B817	木村 周平	2年次生を対象として、学生各自が研究課題に即 した発表を行い、論文の作成能力を養う。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC733	文化人類学研究I A	2	1.5	3	春ABC	応談	人社 B817	木村 周平	3年次生を対象として、学生各自が博士論文の研 究課題に沿って民族誌および理論について発表 する。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC734	文化人類学研究I B	2	1.5	3	秋ABC	応談	人社 B817	木村 周平	3年次生を対象として、学生各自が博士論文の研 究課題に即して対象社会の情報を分析し、発表 する。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC735	文化人類学研究II A	2	1.5	4	春ABC	応談	人社 B817	木村 周平	4年次生を対象として、博士論文の執筆に向け て、学生各自がフィールドワークで収集した資 料を整理・分析して発表する。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC736	文化人類学研究II B	2	1.5	4	秋ABC	応談	人社 B817	木村 周平	4年次生を対象として、学生各自が博士論文の研 究課題に即した対象社会の情報を分析し、比較 考察した成果を発表する。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC737	文化人類学研究III A	2	1.5	5	春ABC	応談	人社 B817	木村 周平	5年次生を対象として、学生各自が博士論文の研 究課題およびその構成を発表する。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC738	文化人類学研究III B	2	1.5	5	春ABC	応談	人社 B817	木村 周平	5年次生を対象として、学生各自が博士論文につ いて民族誌の記述、理論に関わる分析を発表す る。	オンライン(同時双方 向型) 英語と日本語で授業。 Cモジュールは英語を 用いる
02DC743	民俗学特講I-A	1	1.0	1・2	春AB	木2		徳丸 亜木	民俗学における信仰伝承研究に関わる先端的な 研究動向を主に歴史民俗学的研究の立場から把 握する。受講者それぞれの関心に応じた問題を 析出し、議論を踏まえた上で、分析を行い得る 能力を高める。	西暦奇数年度開講。 OABACL0と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC744	民俗学特講I-B	1	1.0	1・2	秋AB	木2		徳丸 亜木	「祖先祭祀研究・葬制研究の現在」をテー マとして、日本および東アジアの葬制に関す る民俗学および文化人類学の研究について、比 較民俗学、ならびに歴史民俗学的研究視角から の講義を行う。また関連する論文を講読し、検 討することでテーマに関する研究視角・方法論 を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OABACL1と同一。 オンライン(同時双方 向型)
02DC745	民俗学特講II-A	1	1.0	1・2	春AB	火5,6		中野 泰	本講義では、主として日本の「漁業」の民俗を 対象に、民俗学初期の古典的研究から精読を行 い、輪読形式で、その枠組みと方法を批判的に 検討しながら、民俗学的視角と方法を展望す る。	西暦奇数年度開講。 OABACL2と同一。 隔週開講 対面
02DC746	民俗学特講II-B	1	1.0	1・2	秋AB	火5,6		中野 泰	本講義では、「漁業」をとりまくサブシステ ムの動態を対象に、領域横断的な研究例の検討 を行う。日本に事例を主として、日本以外の例 をも参照し、今日の「漁業」研究の視角と方法 について展望することを目的とする。	西暦奇数年度開講。 OABACL3と同一。 隔週開講 対面
02DC747	民俗学特講III-A	1	1.0	1・2					人びとの生活に密接に関わる制度・法令に応じ て、人々の日常的な営為は法制度遵守の範囲内 で執り行われている、はずである。法令上でき ることできないこと、合わせざるを得なかった ことなどが生活・行動にいかんにか影響したかを考 える。	西暦偶数年度開講。 01DQ335, OABACL4と同 一。 オンライン(同時双方 向型)

02DC748	民俗学特講III-B	1	1.0	1・2					家族という研究対象について、変容、暮らし、ジェンダー、教育、労働、福祉、死、グローバルなど様々な方向からのアプローチを検討し、理解する。	西暦偶数年度開講。 01DQ336, 0ABACL5と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC749	民俗学演習I-A	2	1.0	1・2					民俗学における信仰伝承研究を踏まえ、民俗学ならびに関連分野の論文を講読し、受講者それぞれの研究関心からの検討を加える。民俗学における信仰伝承研究に関わる基本的な学識を主に歴史民俗学的研究の立場から把握し、問題を析出し、議論を踏まえた上で、分析を行い得る能力を高める。	西暦偶数年度開講。 0ABACL6と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC750	民俗学演習I-B	2	1.0	1・2					主に歴史民俗学的視点に関わる民俗学研究ならびに、歴史学・文化人類学・社会学・宗教学など関連領域の研究から文献を選び、講読し、批判的に検討する事により、参加者各々が歴史民俗学的研究に関する知見を深め、方法論の検討を行う。	西暦偶数年度開講。 0ABACL7と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC751	民俗学演習II-A	2	1.0	1・2					柳田国男、宮本常一、桜田勝徳を取り上げ、高度経済成長期以前における民俗誌の試みを、フィールドワークやフィールドノートも含めて対象化し、民俗(族)誌の意義と可能性について検討する。	西暦偶数年度開講。 01DQ345, 0ABACL8と同一。 隔週開講 対面
02DC752	民俗学演習II-B	2	1.0	1・2					占領期、高度経済成長期に現れた民俗(族)誌、及び、1990年代以降、近年の試みとして、領域横断的、あるいは、実験的な試みを、民俗学、社会学、人類学等から取り上げ(英語文献を含む)、民俗学的フィールドワークに基づく民俗(族)誌の意義と可能性について検討することを目的とする。	西暦偶数年度開講。 01DQ346, 0ABACL9と同一。 隔週開講 対面
02DC753	民俗学演習III-A	2	1.0	1・2	春AB	金2		武井 基晃	戦後台湾の民俗誌・事例をふまえて家族という研究対象について様々な方向から理解し、民俗学における民俗誌の分析を検討する。	西暦奇数年度開講。 0ABACM0と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC754	民俗学演習III-B	2	1.0	1・2	秋AB	金2		武井 基晃	戦前から戦中の日本統治下における台湾の社会と民俗・信仰について、当時の資料・民俗誌を講読することで理解する。特に、地域社会と人々の信仰のあり方に直結した寺廟整理に着目し、この政策がどのように始まり、地域社会にいかにか受容され、具体的にどのような手続きがなされたのかについて、当事者の生の記録を通して読み解く。これに関連して同時期の台湾において日本人・台湾人を交えた台湾の民俗の調査・研究の機運の高まりとその成果についても取り扱う。	西暦奇数年度開講。 0ABACM1と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC755	文化人類学特講I-A	1	1.0	1・2					人類学の学問としての特徴は何か?本講義は民族誌の記述と文化人類学理論の関係について、具体的なケースを取り上げて議論する。テーマとしては現象学、権力論、身体論を問題化した民族誌の記述とその理論的な課題について考察する。	西暦偶数年度開講。 0ABACM2と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC756	文化人類学特講I-B	1	1.0	1・2					人類学の学問としての特徴は何か?本講義は民族誌の記述と文化人類学理論の関係について、具体的なケースを取り上げて議論する。テーマとしては経済活動、親族関係、環境、主体を問題化した民族誌の記述とその理論的な課題について考察する。	西暦偶数年度開講。 0ABACM3と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC757	文化人類学特講II-A	1	1.0	1・2	春AB	木3		木村 周平	現代の文化人類学の課題や理論的な動向について学ぶ。特に1980年代以降に焦点を当て、その時代に提起された課題とそれへの応答として起きた変化、およびその後の新しい考え方や方法を理解する。授業では、こうした動向の形成に大きな影響を及ぼした著作や代表的な論文を取り上げ、そこで何が問題とされ、どのようなことが論じられているか、またどのようなスタイルで調査や記述が行われているかを把握し、それに対して自分自身がどのような立ち位置を取るかを考える。	西暦奇数年度開講。 0ABACM4と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC758	文化人類学特講II-B	1	1.0	1・2	秋AB	木3		木村 周平	現代の文化人類学の課題や理論的な動向について学ぶ。特に科学技術社会論と呼ばれる研究群が現代の人類学に与えた理論的・方法的な影響に焦点を当て、この分野の独自性や方向性の形成に大きな影響を及ぼした著作や代表的な論文を取り上げ、そこで何が問題とされ、どのようなことが論じられているか、またどのようなスタイルで調査や記述が行われているかを把握し、その可能性と限界、および自分自身がどのような立ち位置を取るかを考える。	西暦奇数年度開講。 0ABACM5と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC759	文化人類学演習I-A	2	1.0	1・2	春AB	火4		木村 周平	人間を環境世界・周囲世界の中においてポストヒューマンの視点から再考する。本演習では、脱人間中心の倫理学の可能性をポストヒューマンの多様な視点から考察し議論する。	西暦奇数年度開講。 0ABACM6と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC760	文化人類学演習I-B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		木村 周平	本演習は民族誌の可能性について考察をした後、人類学的な問いを立てて、これを民族誌を書くことを通して、その答えを示唆する訓練を行う。演習では民族誌を分解してその構成について議論し、民族誌を書いて、建設的な批判を行う。	西暦奇数年度開講。 0ABACM7と同一。 オンライン(同時双方向型)

02DC76A	文化人類学演習II-A	2	1.0	1・2				文化人類学の主要なテーマを取り上げ、代表的な著作、論文を取り上げて講読することで、文化人類学の考え方やアプローチについて具体的に学ぶ。この授業では特に古典的なテーマである親族に焦点を当て、受講者全員で指定した文献の講読と議論を行うことで、このテーマについての広汎かつ体系的な理解を得るとともに、近年提出されている概念や理論についても検討し、その可能性と限界、および自分自身の研究をどう位置づけるかを考える。	西暦偶数年度開講。 OABACM8と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC76B	文化人類学演習II-B	2	1.0	1・2				文化人類学の主要なテーマを取り上げ、代表的な著作、論文を取り上げて講読することで、文化人類学の考え方やアプローチについて具体的に学ぶ。この授業では特に現代的なテーマである主体性や情動に焦点を当て、受講者全員で指定した文献の講読と議論を行うことで、このテーマについての広汎かつ体系的な理解を得るとともに、近年提出されている概念や理論についても検討し、その可能性と限界、および自分自身の研究をどう位置づけるかを考える。	西暦偶数年度開講。 OABACM9と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DC76C	民俗学・文化人類学実習-A	3	2.0	1	春C	応談	木村 周平, 徳丸 亜木, 武井 基晃, 中野 泰	1年次生を対象として、フィールドワークの方法論を実践的に学ぶ。フィールドワークの深め方と総合化等、今後の民俗学研究・文化人類学研究の基礎となる研究法を訓練する。民俗学・文化人類学領域全教員による指導を受け、研究テーマについての発表に基づき、参加者による討論を行う。フィールドや調査テーマについての自主学習の計画や共同学習をコーディネートする。	OABACN0と同一。 その他の実施形態
02DC76D	民俗学・文化人類学実習-B	3	2.0	1	秋C	応談	木村 周平, 徳丸 亜木, 武井 基晃, 中野 泰	1年次生を対象として、修士論文に向けたフィールドワークの実践的遂行能力を養う。フィールドや調査テーマについての自主学習の計画や共同学習のコーディネートを継続し、実習前に予備調査を行う。民俗学・文化人類学領域全教員による指導を受け、1週間程度のフィールドワークを行い、フィールドワークで得られた資料を基について報告書を作成する。	OABACN1と同一。 その他の実施形態
02DC76L	民俗学・文化人類学研究実習-A	3	2.0	1	春C	応談	木村 周平, 徳丸 亜木, 武井 基晃, 中野 泰	1年次生を対象として、民俗学・文化人類学領域全教員による指導のもと、博士論文作成に向けてフィールドワークの方法論を実践的に学ぶ。実習に関わる事前学習会、フィールドの選定並びに予備調査に主体的に関わり、調査と研究の方法全般についてより高度な訓練を行う。	OBBADL6と同一。 その他の実施形態
02DC76M	民俗学・文化人類学研究実習-B	3	2.0	1	秋C	応談	木村 周平, 徳丸 亜木, 武井 基晃, 中野 泰	1年次生を対象として、民俗学・文化人類学領域全教員による指導のもと、博士論文作成に向けたフィールドワークの実践的遂行能力を養う。実習に関わる事前学習会、フィールドの選定並びに予備調査、本調査、事後学習会に主体的に関わることにより、特定地域のフィールドワークとその報告、フィールドワークの実務、およびフィールドワークの指導方法を学ぶ。研究テーマに即したレポートや論文の執筆を課す。	OBBADL7と同一。 その他の実施形態